



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行

市議団
ニュース

ご相談は
お気軽に

市議会議員
福田 明
43-0468

市議会議員
鈴木やす子
42-2462

新病院建設は市民の総意で

鈴木やす子議員の一般質問から

2009年第2回
定例6月議会

6月4日、第2回定例市議会の一般質問がおこなわれました。質問に立ったのは、日本共産党市議団の2名をふくめて8名でした。今号では、鈴木やす子議員の質問の概要を紹介します。

市民に、いつその情報の周知を

〔鈴木やす子議員〕 5月下旬より新病院建設をテーマに座談会が開催された。市と病院の幹部職出席のうえ、



大津会場 (5/22、ポート大津)

新院長の挨拶と決意の表明もあった。市長が市財政の健全化をすすめる中で新築の展望と必要性、また病院建設の候補地の説明と青写真を提示し、参加者の理解をおおぐ、というかたちで進められた。説明会の実施内容について聞く。

〔市長公室長〕

7ヶ所で開催し、のべ約850人が参加。質問は30ほどで、候補地、起債のこと、経費の内訳、医師確保、診療内容の充実などの内容であった。

〔市長〕 どこもたくさんの方

に来ていただき、関心の高さを印象づけられた。候補地を北部中心に4カ所を示したが、おおむね皆さんの理解を得られたと考えている。

〔鈴木議員〕 今回の内容についての広報も含め、今後の周知、情報提供はどういう形でおこなうのか。

〔市長〕 今回は市長の私案という形で提示させていたのだいものであり、プリントなどでお渡しするのはよろしくないと考えた。今回は、議論の一つの通過点としての座談会であり、検討委員会を経て、決定された段階での周知は当然考える。

〔鈴木議員〕 病院建設は、

市長だけでも、病院だけでなく、議会はもちろん、市民全体の協力なしにはできないこと。その前提が情報の開示だと考える。ていねいに多くの情報を市民にだしていくことが求められる。

〔市長〕 情報開示は当然だし、病院についての検討がすすみ、先において必要と

あれば、また説明会の開催など、皆さんと協議しながら考えていく。

〔鈴木議員〕 県の計画と明らかに違う方向でもあり、財政的な不安を感じる市民も多い。医療・福祉の充実をまちづくりの要としたという事では共感するが、であるならばなおさら市民の共通理解をえること、財政負担への合意も必要である。情報の「一人歩き」を怖がっているのは、合意形成はできない。今後も市財政

飼料米の取組みは継続性をもって

〔鈴木議員〕 市長は、減反政策には反対だが、補助政策との絡みもあり、次善の策として飼料米栽培を積極的にすすめるとしている。取り組みの現状と、農業者の反応をうかがう。

〔環境産業部長〕 輸入飼料

の高騰が続くなか、国内の飼料増産の方法としておこなうものである。当市では畜産農家もあり、生産調整の一方途として飼料米栽培に取り組む。国から10万円あたり8万円、市としても3万円5月19日に開催した研修会



磯原会場 (5/29、ふれあいセンター)

には約90名が参加し、関心も高い。

〔鈴木議員〕 飼料米の作付けを進めることで稲作の圃場として確保する、ということでは耕地維持の点からも有効だと考えるが、補助がなければ経営的にはやれない。補助の継続性はどうか、また特別な収穫機が必要だが、この購入補助はどうか。

〔市長〕 私が市長でいる限り補助は続ける。また機械購入の補助も検討している。

安心・安全のまちづくりと農業生産

〔鈴木議員〕 現在、慣行農法でなく、減農薬・無農薬

による栽培方法が追究され始めている。県でも「エコ農業推進計画」「有機農業推進」を政策立案している。当市での取組みはどうかか。

〔環境産業部長〕 現在13名約21名が参加している。

〔市長〕 市でも各種機関やイベントで販売促進活動をしている。県にも販路拡大支援の必要性については強調している。

〔鈴木議員〕 市の経済からいっても、国土保全、景観からみても、水田のシステムを荒らすわけにはいかない。また「安心・安全なまちづくり」の基本は、まず口にする食品の安全だ。これからの稲作は減農薬、無農薬をめざすべきと考える。

〔市長〕 同感する。今後、そういう方向を模索しながら、取り組んでいく。

※

このほか、小規模事業者登録制度の検討を質問しました。これは、市発注の30万円未満の小規模事業について、入札参加資格をもっていない市内の小規模事業者を対象にし、市が発注する少額な工事などの受注を希望する事業者の登録を受け付け、受注機会を拡大しようというものです。